

大阪市の依存症対策

平成29年7月24日
大阪市健康局 資料

現状と課題

- 治療が長期間に及ぶ一薬物治療の効果は限定的
- 依存症に対する理解不足一「性格の問題、意思が弱い、一部の特別な人が罹る」等の誤った認識
- 治療可能な医療機関の不足一特に大阪市内の専門医療機関は限定的で、対応できる入院病床は非常に少ない
- 回復後に再発しないための支援が重要一常に再発の危険性があるため、支援には自助グループ、支援団体の役割が大きいが、運営・予算面で制約有り

H29事業

アルコール依存

- 大阪市アルコール関連問題ネットワークグループ
(医療機関・支援団体・自助グループ・家族会等との連携)
- アルコール依存の早期治療のための警察・医療機関との連携
- 酒害教室の実施

薬物依存

- 断薬継続のための個別支援モデル事業
- 依存症者家族支援(家族教室の実施)
- 乱用防止のための普及啓発(学校向け研修、リーフレット)
- 薬物関連問題相談

ギャンブル等依存

- 人材育成
(精神保健福祉相談員、生活困窮者自立支援員、生保CW等多職種向け)
- 支援団体との連携

共通

- 大阪府依存症関連機関連携会議・大阪アディクションセンターへの参画
(府・堺・医療機関・支援団体・自助G等との連携)
- 依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関の選定
- 自助G等の育成支援等の検討
- 各区保健福祉センターにおける相談・支援

今後の課題と方向性

- 専門医療機関及び治療拠点機関の選定
- 依存症相談拠点の設置
- 各種依存症対策事業の拡充
- 大阪府との連携による依存症対策
- 法制化を含む国依存症対策の動向に対応

依存症対策総合支援事業実施要綱(国)に基づく 大阪市の依存症対策のイメージ

※ 太ゴシックはH29実施済または実施予定

